

## 令和5年度アンケート調査結果報告書

共生型福祉サービス事業所「タップチップス」【児童発達支援・放課後等デイサービス】を利用されている保護者にアンケート用紙を配布した。

記載していただいたものを参考に職員全員で、現状の課題を分析した。

### 課題について

#### 環境・体制整備について

日本財団の施設建設プロジェクトには今回、説明会に参加をして事前に構想を練っていたが、残念ながら落選となっている。次回は再度構想の練り直しを行い、継続的に応募を行っていく。助成車両についても利用者の利用状況にあった送迎が出来るように必要な際は応募を続けていく。施設に必要な助成金等があれば、積極的に応募を行っていきよりよい支援が行える体制づくりを整えていく。

月に1回、職員会議を行い、業務の質の向上や子供たちの情報を共有しながら支援の方向性や対応について話し合いをする場所を設けている。施設的环境や体制整備についても話し合いを行い、働きやすく支援を行いやすい環境作りに努めている。

また、支援を行う際は児童が怪我などに繋がらないように朝礼や連絡ツールを使用し注意喚起や情報共有を行っている。

#### 業務改善項目について

部会活動については（研修部会、虐待防止委員会、子供アプローチ部会、送迎部会、食事提供部会、入浴・医療部会、事務請求部会、日用品チェック部会、清掃部会）を前年同様の部会編成で行っている。

来年度は部会を再編成し効率よく業務を行っていける仕組みづくりを行う。新たに入職した職員もいるので、部会の仕組みづくりを強化し、環境整備やよりよい支援につなげていければ。また、部会の方向性を職員会議や部会内での振り返りや話し合いを行い改善点などを把握し活動の質の向上を目指していく。

事業所としての幅を広げる為にふくおかレスキュー事業など生活に困難な方を受け入れる体制を整えている。保育所等訪問支援事業についても今後展開していく予定。

#### 適切な支援の提供について

保育士試験等も積極的に受験しており、職員の専門性を向上させている。保育士等の資格を取得することで保護者達に対して専門性の高い助言を行う事が出来るような体制づくりを整えている。また積極的に様々な研修受けており、保護者や子供たちが安心して利用できるよう努めている。コロナウィルス感染症も落ち着いてきたため、外部研修等にも今後は積極的に参加をしていく。

子供の支援については長期休暇や休日にはさまざまな療育や行事を行い、それぞれの特性を伸ばすような支援を心掛けている。子供達が社会に出ても困る事がないように日常生活の訓練や指導を行い成長を見守っている。タップチップ(得点をあつめるチップ)に関しては行事の際に表彰をし、上位ランクの子供には商品などがある為、子供達もタップチップを意識して行動している状況もあるので、支援に組み込みながら今後も活用できれば。支援については工夫や改善すべきところは職員会議などで職員の意向や支援内容について話し合い、よりよい支援が行える施設を目指していく。

第三者評価は実施できていないため課題である。

## 関係機関との連携について

保護者の意向を汲み取り、相談支援員と情報共有を行い状況に応じて他事業所や学校等の連携を図っている。職員間での情報の共有については朝礼時に報告や会議や連絡ツールを通じて共有を行っている。今後も引き続き行っていく。

自立支援協議会の医療・児童部会に参加するとともに、自立支援協議会の研修等にも積極的に参加し必要な情報は職員会議等で伝達している。また、直轄地区地域生活支援拠点等緊急受け入れ事業の説明会にも参加し、具体的に制度が運用されれば事業所として登録する予定である。

## 保護者への説明責任について

前年同様、新型コロナウイルス対策として保護者の参加はご遠慮していただき、代わりに各保護者へのアンケート調査を行い、その内容を支援に反映させた。今年度は卒業式を行い、保護者も数名参加できる状況があった。今後、状況に応じて保護者も参加できる行事を検討していき保護者会を開いていければ。

今年度はホームページの更新が出来ていなかったが、今後は日頃の様子や療育の内容などさまざまな情報発信をしていければ。行事月間スケジュールをホームページ等を活用してお知らせを行う。

コロナウィルス感染症も落ち着いてきたため、外に出かける行事も増えてきた。社会科見学として工場に行ったり、プラネタリウム、四季の行事など概ね年間行事に沿った計画を行う事が出来た。社会科見学もかねて、色々な体験を子供たちが出来るように次年度の行事計画に組み込んでいく。

## 非常時等の対応について

避難訓練は10月に消防署の方に来ていただき避難訓練を行った。年2回を予定しており今後行う予定。

来年度はBCP（事業継続計画）のマニュアル作成や職員への周知、推進を行っていく。

入職した際は虐待や身体拘束について理解を深める為、その都度研修を行っている。また、虐待防止や身体拘束については職員会議等で勉強会を行い、職員の理解が深まるように、その都度学習の機会を作っている。

身体拘束が必要な児童については、保護者より「同意書」を取っているが、虐待に繋がらないように細心の注意を払い拘束が必要な際は事前に拘束が必要な理由を保護者に伝え確認を取ってから行うようにしている。

利用時のアレルギーについては、看護師・栄養士を中心に十分配慮をして食事提供を行っている。

利用時が怪我をしたり、怪我をしそうになった時の状況はヒヤリハット、事故報告書に記載し記録を残している。

## 全職員よりの総論

前年度からの業務改善や部会の役割、職員会議での情報共有を通じて職員の役割や方向性が明確になってきている。支援の質の向上の為の専門職の配置なども整ってきており、次年度はより支援が行いやすい体制が整いつつある。職員は専門知識を活かしながら更なる知識を取得し、より専門性が高い支援が行えるように自己研鑽に励んでいき、子供の特性に合った支援を行い成長を見守っていく。

今後も事業の自己評価や保護者のアンケートを振り返り、環境・体制整備を整えよりより支援が行えるように改善を進めていく必要がある。

コロナウィルス感染症は落ち着いてきたが、いつ未知のウィルスが発生するか分からないので、新型コロナウイルス引き続き換気、手洗い、消毒の徹底を行い、保護者も子供も安心でき皆が楽しく過ごせる施設を目指して、全員で協力しながらタップチップスを成長させていく必要がある。

〒823-0001

福岡県宮若市龍徳字野入1081番地  
社会福祉法人 心誉会  
共生型福祉サービス事業所 「タップチップス」